

【年度のはじめに】

京都市立下京中学校
校長 安居 昌行

平成26年4月、京都市立下京中学校に赴任しました校長の安居昌行です。下京中学校は、地域・保護者の皆様方の「子どもたちのためによりよい教育環境を」との熱い思いを受け、平成19年4月に5中学校が統合し、今年度開校して8年目を迎えました。地域・保護者の方々や先輩諸氏の思いや実践を受け継ぎ、私も学校づくりに力を注ぎたいと思います。それでは年度のはじめにあたり、所信を述べさせていただきます。

校是〈最高経営理念〉 — 志 きらめく —

唯一無二
心を一つに
未来を創る

序

今年の中学3年生のうち早生れの生徒は、2001（平成13）年に生まれています。従って、中学生の多くは「21世紀生まれの世代」の子どもたちです。そのような生徒を目の前にして、「生きる力」を提唱した平成8年7月の第15期中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育について」で述べられた「教育における『不易』と『流行』を十分に見極めつつ、子どもたちの教育を進めていく必要がある」という言葉を確認したいと思います。答申はで「どんなに社会が変化しようとも、『時代を超えて変わらない価値のあるもの（不易）』があり、豊かな人間性、正義感や公正さを重んじる心、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心、人権を尊重する心、自然を愛する心などを培うことは、いつの時代、どこの国の教育においても大切にされなければならない。」と述べ、また「教育は同時に社会の変化に無関心であってはならない、『時代の変化とともに変えていく必要があるもの（流行）』に柔軟に対応していくことも教育に課せられた課題である」と述べています。

今、生徒を取り巻く学校や家庭・地域の様子は、私の世代はもちろんのこと、つい数年前の中学生であった新規採用の教職員ですら中学時代に体験した状況とは大きく変わってきています。このような変化の激しい時代の中で、学校経営には変化に柔軟に対応した取組を求められているとともに、時代を超えて変わらず価値のあるものを追及していくことも学校教育には求められていると思います。

破

ところで、下京中学校は、19学区の地域の皆さんや保護者の方々の熱い思いを受け、平成19年4月に「5中学校」が統合して開校し、今年8年目を迎えました。この7年間を振り返ってみますと、統合後の「一つにまとまる」ことに心血を注いだ時期から、「キャリア教育の構築」を柱に新たな学校づくりにまい進してきた時期を経て今日に至っていると感じます。この間、教職員はもちろん、保護者や地域の方々の力、そして何より生徒の皆さんのごんばりが見られました。下京中学校にかかわる人々が「心を一つに」して学校を創ってきた姿を私も見てきました。

さて、この7年間の取組を継続・発展しつつ、新たなステップを踏み出すために、私から教職員と生徒の皆さんに一つの提案をしました。それは、教職員や生徒の皆さんがこの一年間、主体的に学校づくりにかかわり、実践し点検していく視点として『三つの「間」』を意識して取り組んでほしいという提案です。

『三つの「間」』とは 『空間』 『時間』 『仲間』 です。

それぞれの「間」には様々な内容が含まれますし、考えることができると思います。例えば、物理的な空間や時間、心理的な空間や時間、過ごしやすく安心して勉学に励める空間、限られた時間をどのように有効に使うか、仲間を大切に、共に3年間切磋琢磨して成長していくことができるなど。「主体的に」「目的的に」「自律的に」自分には何ができるか、何のために、何をしなければならないか、チームとして何に取り組むか、話し合ったこと、考えたことが所属する学級や学年、仕事や活動の中で、どう活かせるか、学校総体としてキャリア教育を中核に据え、どこに向かって進もうとしているのかなど。まず「自分は」ということから考え、チーム(学級や学年など)の中で思いを述べ合い、知恵を出し合い、そして、一人一人が行動を起こしてほしいと思います。

急

結びに、「志きらめく」という校是について触れておきます。

『井の中の蛙 大海を知らず』の後に『されど空の高さを知る』と言い続ける言い方があります。下京中学校に集う私たちは、常に「志は高く 学びは深く 出会いは広く」ありたいと思います。一年間のはじめに、ともに仕事ができる“喜び”と、生徒とともに成長の機会を与えられている“仕合せ”を感じ、皆さんと一緒に「志きらめく」学校づくりに力を注ぎたいと思います。

「・・・種あらば、年々時々の比に、などか逢はざらん。ただ、返すゞ、初心を忘るべからず。」

(『風姿花伝』より)